

二字漢語サ変動詞の自他分布に関する一考察

—BCCWJに基づいて—

楊 健

提要

日语中的和语动词, 存在许多词源相同的自动词和他动词组(ペア), 例如“割る-割れる”、“流す-流れる”等。而这些成对的和语动词可以从形态上判断其自他用法。与此不同, 汉语サ变动词只有“～する”这一种形态, 因此难以从形态上判断其自他用法。本文通过调查“现代日语书面语均衡语料库”(BCCWJ), 网罗书面语中常用汉语サ变动词, 并对其自他用法进行归纳总结, 得出以下结论: 首先, 现代日语サ变动词中, 汉语サ变动词的数量最多, 将近 90%, 而其他语种只占少数; 此外, 与和语动词相比, 二字汉语サ变动词中存在较多的自他两用动词。但是在二字汉语サ变动词中, 自他两用动词的数量只有少数, 比率只占 5%。本文通过对语料库资料的初步统计, 旨在为今后的研究提供数据和材料。

Keywords: サ変動詞 自動詞 他動詞 自他両用

0. はじめに

現代日本語には和語、漢語、外来語があり、動詞に関して、「流す・流れる」「割る・割れる」「始める・始まる」のような和語動詞では、多くの場合、形態的に自他を判断することができる。しかし、漢語サ変動詞の場合は、「勉強する」「存在する」「解散する」のように、「～する」という一つの形態しか持っていないため、形態からの自他判別は困難である。また、楊高郎(2010)によると、和語動詞と異なり、漢語動詞には自他両用動詞が数多く存在する。また、国語辞典における自他判定の基準が統一しておらず、実際に自他認定がゆれている語が多く存在することが判明している。

本稿では、先行研究を踏まえたうえで、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(中納言)」(以下では BCCWJ と略する)における二字漢語サ変動詞の自動詞、他動詞と自他両用動詞を選別し、今後の研究に役立つデータベースを提供することを目指す。

1. 先行研究

漢語サ変動詞に関する先行研究は多数存在し、様々な角度からの考察が行われている。以下では、漢語サ変動詞の内部構造や自他用法の観点からの考察に注目し、先行研究をまとめておく。

1.1 漢語サ変動詞の内部構造について

漢語サ変動詞の内部構造についての研究としては、日向(1985)、野村(1999)、小林(2004)が挙げられる。

日向(1985)は、漢語サ変動詞を構造上、並立関係、修飾関係、客体関係、実質関係の4種類に分ける。さらに、並立関係の漢語サ変動詞には「稼働」「崇拜」のような同意の漢字からなるものと、「出没」「売買」のような反意の漢字からなるものがあると指摘する。また、修飾関係の漢語サ変動詞については、形容詞性や副詞性の漢字が添加している場合と、修飾部にそれ以外の漢字が位置している場合とに分けている。

野村(1999)は、二字漢語の各文字の品詞性を、事物類(N)、動態類(V)、様相類(A)、副用類(M)、接辞(s)の5種類に分ける。そして、各構成要素間の関係を、補足関係(+)、修飾関係(>)、並列関係(・)、対立関係(-)、反復関係(=)の5種類に分類する。上記各級の組み合わせにより、二字漢語サ変動詞が組立てられることになり、計22種類の漢語動詞に整理されている。(1)はそれらの例である。

(1)

「N+V」：骨折、気絶	「V+N」：握手、開花	「A+N」：貧血、多言
「N>V」：音読、兄事	「V>V」：愛用、滑降	「A>V」：軽視、安眠
「M>V」：共感、一掃	「V・V」：引退、救助	「V-V」：開閉、屈伸
「V=V」：云々、転々	「N>N」：原因、金策	「V>N」：起因、残業
「A>N」：紅葉、粗食	「N・N」：影響、葛藤	「N-N」：左右、始末
「A=A」：清々	「sV」：殺到、所期	「sA」：不精
「Ns」：液化、酸化	「Vs」：欠如、消化	「As」：悪化、強化
「その他」：運休、軍縮		

(野村 1999 より)

小林(2004)は、「する」を伴って動詞として機能する名詞を「動名詞(VN)」と呼び、二字漢語動名詞だけでなく、三字および四字漢語動名詞も視野に入れつつ、漢語動名詞をめぐる全面的な考察を行っている。まず二字漢語動名詞に

関して、「読書」「投票」のような動詞的要素と名詞的要素で構成されるタイプ(VN-Nタイプ)、「使用」「溺死」のような動詞的要素と動詞的要素で構成されるタイプ(VN-VNタイプ)、「密売」「病死」のような付加詞的要素と動詞的要素で構成されるタイプ(ADJ-VNタイプ)、「挨拶」「支配」のような構成要素が抽出できない二字漢語動名詞の四つのタイプに分類する。次に三字漢語動名詞に関して、主に「再～」「～化」を取り上げ、「再VN」の語彙概念構造や成立条件を明らかにし、「～化」に見られる自他交替の現象について論じる。さらに四字漢語動名詞に関して、「法律改正」「意識改革」のような名詞的要素と動詞的要素で構成されるタイプ(N-VN)、「受注生産」「通勤通学」のような動詞的要素と動詞的要素で構成されるタイプ(VN-VN)、「空中爆発」「同時決定」のような付加詞的要素と動詞的要素で構成されるタイプ(ADJ-VN)の3種類に分け、それぞれの内部構造や文法的な振る舞いについて論じている。

1.2 漢語サ変動詞の自他用法について

漢語サ変動詞の自他用法に関する先行研究としては、金(2004)、楊(2007; 2010)、張(2014)が挙げられる。

影山(1996)は、自他交替する動名詞「VNする」はすべて他動詞用法を基にして、そこから自動詞用法が派生されるとし、その根拠の一つとして、「VNする」の他動詞用法に比べて自動詞用法の方に制限が見られることを挙げている。これに対して、金(2004)は影山(1996)による一般化の反例を示し、すべての自他交替する「VNする」の自動詞の方が制限を持っているわけではなく、逆に他動詞用法に制限が見られる「VNする」が存在するとしている。例えば、

(2) a. イラクとの国交が回復した。

b. ヨルダンがイラクとの国交を回復した。

(金 2004:91)

(3) a. 景気が回復した。

b. *経済学者が景気を回復した。

(金 2004:91)

金(2004)は、上記例(3b)のような他動詞用法に制限が見られる漢語動詞について、主語と述語の間に「再帰的關係」が存在する場合は他動詞文が成立するが、そうでない場合は成立しないと述べている。

楊(2007)は、影山(1996)、金(2004)の観察を継承し、自他両用の漢語サ変動

詞を典型的な自動詞、他動詞と比較しつつ、「する」形と「させる」形、「する」形と「される」形の対応関係について考察した結果、自他両用漢語動詞を以下の三つのパターンに分けている。

(4)

- a. 自動詞から他動詞が派生される動詞: 「回復する」「半減する」「増加する」
- b. 他動詞から自動詞が派生される動詞: 「解決する」「拡大する」「分解する」
- c. 自動詞と他動詞が同等に働く動詞: 「停止する」「中断する」

(楊 2007: 73)

楊(2010)は、自他両用漢語動詞に注目し、『岩波国語辞典』『学研現代新国語辞典』『明鏡国語辞典』の3種の国語辞典を参照して、辞書における漢語動詞の自他認定がゆれていることを明らかにし、3種の辞書での自他分類一致率は約30%に過ぎないことを指摘する。そして、自他分類がゆれている二字漢語動詞を「非能格構文 vs 対格構文」タイプ、「動作主体=変化主体」タイプ、「再帰的目的語」をとるタイプ、「同族目的語」をとるタイプの4種類に分ける。上記4タイプの例は(5)のようなものである。

(5) Aタイプ: 典型的な「非能格構文 vs 対格構文」

- a. 新人が力演する。(非能格自動詞文)
- b. 新人がハムレットを力演する。(他動詞文)
- c. ??ハムレットが力演する。

Bタイプ: 「動作主体=変化主体」

- a. 選手たちがA球団からB球団に移籍した。(自動詞文)
- b. 選手たちが球団を移籍した。(他動詞文)
- c. ??球団が移籍した。

Cタイプ: 「再帰的目的語」

- a. スケート選手が回転する。(自動詞文)
- b. スケート選手が{体/リンク}を回転する。(他動詞文)
- c. スケート選手の体が回転する。

Dタイプ: 「同族目的語」

- a. 太郎が輸血した。(自動詞文)

- b. 太郎が 500cc の血を輸血した。(他動詞文)
- c. ??血が輸血した。

(楊 2010:83-85)

張 (2014) は、自作コーパスを利用し、二字漢語動詞を対象として、漢語動詞の語構成や、自他を決める規則を記述することを目標としている。自他の判定方法として、「ヲ格を取るか否か」および「構文的な自他対応」を重視し、「直接受身が作れるか否か」を副次的な判断手段としている。そのうえで、(6) に示すような構文的な自他対応となる漢語動詞を自他対応動詞としている。

- (6) a. N1 が N2 を V1 (他動詞)
- b. N2 が V1 (自動詞)

(張 2014:24)

そして、張 (2014) は二字漢語サ変動詞を「AV 型」「VN 型」「VV 型」の 3 種に分け、これを基準に漢語動詞の内部構造から自他の規則を分析している。読売新聞 1 年分の全データをコーパスとする客観的な研究手段は張 (2014) の最大の特徴と言える。

以上、漢語サ変動詞の内部構造および自他用法の判定に関する先行研究を概観した。二字漢語サ変動詞、特に自他両用漢語サ変動詞の研究ではさまざまな成果が得られていることが分かる。しかしながら、データを用いた研究にはまだ大いに進展の余地があると考えられる。本稿では、二字漢語サ変動詞の内部構造には触れず、主に自他両用と考えられる語例をコーパスから収集することを目的とする。漢語動詞の自他に関わる今後の研究にデータベースを提供することを目指すものである。

2. 調査資料と方法

本稿で扱う資料は現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) から抽出したデータである。BCCWJ は書籍全般、雑誌全般、新聞などのジャンルからバランスよくサンプルが抽出されており、現代日本語の全体像を把握するのに有効なコーパスである。また、BCCWJ には語彙素、品詞、活用形といった多種類の検索条件が設けられており、使用者が自分の必要に合わせて適切な検索手段を選ぶことができる。

検索方法としては短単位検索¹を利用し、検索条件を「キー:品詞-大分類-名詞」²、「後方共起:語彙素読み-スル」または、「後方共起:語彙素読み-デキル」³のように設定する。検索結果をダウンロードし、表計算ソフト EXCEL を使って検索結果から二字漢語サ変動詞を抽出する。抽出する際、語彙素を基本にし、品詞の下位項目から「名詞-普通名詞-サ変可能」と「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」を選び、更に語種の下位項目から「漢語」を選定し、二字漢語サ変動詞を選出する。最後に異なり語彙リストを作成することで二字漢語サ変動詞の抽出作業が終る。抽出された二字漢語サ変動詞を EXCEL に入力し語彙リストを作成したのち、二字漢語サ変動詞の自他を判定する。

3. 自他両用動詞の判定

楊(2009)でも指摘したように、国語辞典における自他両用の認定にはゆれている。3種の国語辞典での判断の基準が異なり、その結果自他分類が一致する動詞は約30%に過ぎない。大半の自他両用動詞は(7)のような「非対格構文 VS 対格構文」の対応関係を持っている。

- (7) a. 夢が実現した。 (自動詞文)
 b. 太郎が夢を実現した。 (他動詞文)
 c. ??太郎が実現した⁴。

(楊 2010:82)

例(6)に示したように、張(2014)でも同様の「非対格構文 vs 対格構文」の関係を持つ漢語動詞を自他両用動詞としている。本稿では楊(2009)、張(2014)と同じ立場をとる。また、本研究で扱う二字漢語サ変動詞は、一部が張(2014)の提供する CD-ROM に収められたデータと重なっているため、重なる語の自他判定は張(2014)の調査結果を参考にして行なった。なお、出現頻度の低い動詞の自他については、「NINJAL-LWP for BCCWJ」⁵検索や GOOGLE 検索を利用して、可能なかぎり多くの例を収集し、さらに辞書の記述も参考して判定した。

¹ 短単位検索で検索する場合、「一変する」を「一」と「変」を二つの語彙素に分けるといような間違いが生じる場合がある。このような間違いを避けるために、手作業でチェックし、形態素解析ウェブアプリ UniDic-MeCab を利用し再確認を行う。

² 本稿では二字漢語サ変動詞を中心としているが、他の語種のサ変動詞も視野に入れているため、検索条件を直接に「語種-漢語」とするのではなく、「品詞-名詞」とした。

³ 「VN する」と「VN できる」で検索した結果を合計すると最後の結果となる。例えば、「理解する」は562件で、「理解できる」は3393件であり、合計で3955件である。

⁴ 楊(2010)からそのまま引用したものである。例(7c)は「～を」が省略されていると解釈されては可能である。

⁵ 詳しくは <http://nlb.ninjal.ac.jp/> を参照。

4. 調査結果

4.1 各語種のサ変動詞の分布

第2節と第3節で述べた方法で集めたサ変動詞は語種により、漢語サ変動詞、和語サ変動詞、外来語サ変動詞、混種語サ変動詞に分けられる。各語種の異なり語数を表1に示す。

表1 語種によるサ変動詞の分布

語種	異なり語数	比率
漢語サ変動詞	5081	87.75%
和語サ変動詞	315	5.44%
外来語サ変動詞	348	6.01%
混種語サ変動詞	46	0.79%

表1に見るように、語種から見れば、漢語サ変動詞が圧倒的に多いことが分かる。これは多くの研究者が漢語サ変動詞に注目する理由の一つであろう。和語や外来語、混種語の数は少ない。また、各語種の延べ語数から見ても、漢語サ変動詞はほかの語種よりも圧倒的に多い。各語種の延べ語数(上位50語)⁶は付録1に表示する。

4.2 二字漢語サ変動詞の選定

漢語サ変動詞はすべてが二字から成るわけではなく、「入出力する」「送受信する」のような三字の動詞、「自問自答する」、「右顧左眄する」のような四字の動詞も存在する。小林(2004)によると、一年分の朝日新聞から集めた漢語サ変動詞のデータは表2のとおりである。

⁶ 紙幅の関係で、全部の語彙を示すことを避けた。

表2 小林(2004)による漢語サ変動詞の分布⁷

	延べ語数	異なり語数
二字漢語サ変動詞	10523	1440
三字漢語サ変動詞	313	134
四字漢語サ変動詞	163	123
その他	75	53

表2に見るように、三字、四字漢語サ変動詞は延べ語数、異なり語数ともに少なく、二字漢語サ変動詞が多数を占めている。また、張(2014)も二字漢語サ変動詞の使用頻度が最も高いとしている。さらに、語構成から見ると、三字漢語動詞と四字漢語動詞の多くは二字漢語動詞に基づいており、二字漢語動詞を中心に考察する妥当性は十分あると考えられる。

本稿では「入出力する」「送受信する」のような三字漢語サ変動詞を対象とせず、四字漢語サ変動詞については、形態素解析ウェブアプリ UniDic-MeCab を利用して「二字漢語+二字漢語」のように分け、それぞれの語を分析する。例えば、「自問自答」の場合、「自問」と「自答」の品詞がともに UniDic-MeCab において「サ変可能」となるため、両方とも二字漢語サ変動詞として扱う。他方、「切歯扼腕」の場合、「切歯」の品詞が「普通名詞」となり、「扼腕」の品詞が「サ変可能」となるため、後項の「扼腕」だけを対象とする。上のような手順で BCCWJ から選ばれた二字漢語サ変動詞の異なり語数は、全部で 5077 語である。

4.3 二字漢語サ変動詞の自他分布

張(2014)のデータを参照しつつ、第3節で述べた方法で二字漢語サ変動詞の自他を判定した。その結果、5077語の二字漢語サ変動詞のうち、他動詞は2742語、自動詞は2073語、自他両用動詞は262語であった。各種動詞の異なり語数は表3のとおりである。延べ語数の一部は付録2に示す。

⁷ 小林(2004:24)。小林(2004)は「漢語動名詞」と呼んでいるが、本稿では用語の統一のため「漢語サ変動詞」とする。

表3 二字漢語サ変動詞の自他分布

自他動詞	異なり語数	比率
他動詞	2742	54.01%
自動詞	2073	40.83%
自他両用動詞	262	5.16%

表3に見るように、二字漢語サ変動詞のうち、自他両用動詞の数が最も少なく、比率は5.16%である。張(2014)のデータでは、他動詞、自動詞、自他両用動詞の比率はそれぞれ52.1%、41.8%、6.1%となっており、表3の数字に近い⁸。和語動詞の場合、「割る・割れる」「流す・流れる」のような、語源を同じくすると見られる他動詞と自動詞の対(ペア)が多く、自他両用動詞は「ひらく」「閉じる」「伴う」などのごく少数に限られる。和語動詞に比べれば、二字漢語サ変動詞には自他両用動詞が多く存在すると言える。

5. 語構成の問題

小林(2016)は、張(2014)の問題点をいくつか指摘している。例えば、二字漢語の語構成に関して、小林(2016)は(8)の西尾(1988)の議論を引用したうえで、「二字漢語の語構成を「共時論的な立場」から分析する際には、「その要素の意味が比較的是っきりと生きているもの」に限定しなければならない」(小林2016:79)と主張している。

(8) 漢字は元来は一字が一語を表すものであるから、二字漢語は二語の複合という性格をもちやすそうにも思われる。しかし、現代日本語における漢字の一つ一つは独立の語には相当しないものが多い。構成要素である各々の字音は、造語成分として新たな語の形成にあずかるものの、日本語としては独立的な要素ではないものが多い。したがって、二字漢語の多くは、現代語では単純語的なものとして意識されやすい傾向をもっている。しかし、他面では、現代においては文字言語がわれわれの言語意識に与える力が大きいことなどから、二字漢語のあるものが文字に対応して分析的に意識されやすい要因も生じているのではないか。二字漢語のうちで、その要素の意味が比較的是っきりと生きているものについて、その内部のシンタクスを考えることは、共時論的な立場からの逸脱ではあるまい。

⁸ 張(2014:28)を参照。ちなみに、張(2014)は対象とする二字漢語動詞が4383語である。

(西尾 1988:114)

今後の研究においては、漢語サ変動詞の自他用法を中心とする議論を行うが、漢語サ変動詞の語構成を扱うことが当面ない。

6. まとめ

本稿では、まず二字漢語サ変動詞に関する先行研究をまとめ、そこでは主に、二字漢語の内部構造と自他判定という二つの方面からの考察が見られた。次に本稿では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を調査し、形態素解析システムを利用しつつ、すべての語種におけるサ変動詞の語例を収集し、以下のような結果を得ることができた。

- ・サ変動詞のうち漢語サ変動詞が圧倒的に多く、九割近くを占めている。
- ・和語動詞と異なり、二字漢語サ変動詞には自他両用動詞が比較的多く存在しているが、漢語サ変動詞のなかで自他両用動詞の比率はやはり最も小さく、5%あまりである。

本稿は今後の研究に役立つデータベースを提供することを目標とするものであり、漢語サ変動詞に関する研究、特に二字漢語サ変動詞の自他用法に関する研究は別の機会にゆずる。

参考文献

- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版
 金英淑(2004)「「VNする」の自他交替と再帰性」『日本語文法』4-2、日本語文法学会、くろしお出版
 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
 小林英樹(2016)「書評 張志剛著『現代日本語の二字漢語動詞の自他』」『日本語の研究』12-2、日本語学会
 張志剛(2014)『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版
 西尾寅弥(1988)『現代語彙の研究』明治書院
 野村雅昭(1999)「サ変動詞の構造」森田良行教授古稀記念論文集刊行会(編)『日本語研究と日本語教育』明治書院
 日向敏彦(1984)「漢語サ変動詞の構造」『上智大学国文学論集』18、上智大学国文学会
 楊尙郎(2007)「自動詞・他動詞用法に意味的制限を持つ自他両用動詞について—二字漢語動詞を中心に—」『筑波日本語研究』12、筑波大学文芸・言語研

究科日本語学研究室

楊高郎(2010)「国語辞典における自他認定について:自他両用の二字漢語動詞を中心に」『筑波日本語研究』14、筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室

付録 1 各語種のサ変動詞語例(上位 50 語)

漢語	延べ語数	和語	延べ語数	外来語	延べ語数	混種語	延べ語数
存在	836	びっくり	359	スタート	76	手配	58
説明	735	値	105	チェック	69	勘違い	33
利用	632	出入り	99	コントロール	67	合図	31
発見	584	恋	48	ノック	58	両替	25
理解	562	旅	40	プレゼント	53	浮気	20
紹介	554	噂	36	アップ	43	出立	17
結婚	481	行き来	32	キス	42	指図	16
主張	442	真似	29	リード	41	逆戻り	14
発表	424	日焼け	27	セット	40	気兼ね	10
登場	421	先取り	26	デザイン	36	気落ち	8
意味	417	仕事	25	カバー	33	野宿	8
展開	375	屯	24	メモ	27	勢揃い	7
成立	374	大笑い	23	ジャンプ	26	とんずら	6
使用	369	一休み	23	イメージ	25	地植え	5
表現	365	長生き	23	マスター	24	落書き	5
参加	364	身震い	23	カット	23	気後れ	5
注目	360	後退り	22	リラックス	23	気配り	5
形成	359	長続き	22	オープン	22	区分け	5
心配	358	味方	20	ヒット	21	体当たり	4
成功	354	取り引き	20	ウィンク	21	縁組	4
注意	342	裏打ち	19	コピー	21	鉢合わせ	3
発生	334	舌打ち	19	タッチ	21	根負け	3
指摘	333	討ち死に	19	エスカレート	20	立ちしょん	3
変化	324	耳打ち	18	キャッチ	19	ピンハネ	2
要求	311	尻込み	18	カーブ	18	大損	2
実現	307	深入り	17	チャーター	17	店番	2
無視	304	手招き	16	アプローチ	16	度忘れ	2
確認	304	枝分かれ	15	デート	16	客待ち	2
期待	303	目配せ	14	キャンセル	16	利上げ	2
判断	294	素通り	14	バックアップ	15	気晴らし	2

用意	283	大騒ぎ	14	ロック	15	引き算	2
完成	271	寝泊まり	14	アピール	15	用立て	2
構成	268	幸い	13	インタビュー	15	足し算	2
反対	263	待ち伏せ	13	プレー	15	どたキャン	1
強調	262	物	12	ストップ	15	棒読み	1
発展	261	手入れ	12	ターン	14	代替わり	1
支配	259	遣り繰り	12	バック	14	地巻き	1
実施	255	見聞き	12	パス	14	地上げ	1
報告	254	裏書き	11	サイン	13	胴震い	1
決定	251	先回り	11	スケッチ	13	訪ソ	1
否定	249	口出し	11	フォロー	13	格上げ	1
想像	249	手分け	11	デビュー	13	掛け算	1
提供	247	手助け	11	ダイヤル	13	喝上げ	1
検討	239	一眠り	11	クリア	12	激痩せ	1
開始	237	災い	11	チャレンジ	12	念押し	1
評価	235	凸凹	11	ミックス	11	総濠い	1
出発	234	見え隠れ	11	インプット	11		
一致	234	黒光り	10	サービス	11		
提出	229	背伸び	10	ダウン	10		
対応	229	咳払い	10	マーク	9		

付録 2 二字漢語サ変動詞の自他分布(上位 50 語)

他動詞	延べ語数	自動詞	延べ語数	自他両用	延べ語数
理解	3955	対応	1365	実現	867
利用	2719	参加	1253	解決	733
期待	1839	存在	895	満足	642
確認	1731	結婚	701	集中	496
説明	1505	安心	670	展開	479
使用	1292	生活	541	変更	471
納得	1222	登場	428	移動	415
発見	963	成功	403	決定	360
想像	912	成立	378	再生	359

表現	885	變化	335	發生	339
判斷	859	成長	313	完成	298
我慢	849	対処	312	接續	276
否定	789	對抗	304	開始	262
發揮	788	活躍	302	拡大	248
信賴	682	發展	281	確立	239
確保	678	出發	280	回復	221
無視	678	反対	275	破壊	202
信用	664	行動	272	改善	191
紹介	632	出席	271	解消	176
入手	620	到達	265	増加	166
維持	597	到着	243	失敗	165
購入	590	一致	243	徹底	140
主張	563	卒業	238	更新	138
指摘	545	反映	222	繼續	137
達成	541	通過	221	進行	127
提供	539	活動	206	統一	126
把握	532	貢獻	203	減少	122
選択	531	抵抗	202	充実	116
評価	525	賛成	198	確定	112
実感	508	独立	196	一貫	112
発表	478	感心	190	乾燥	108
実行	474	発達	188	轉換	108
証明	470	出現	186	分離	106
設定	459	電話	176	復活	104
実施	459	關係	172	停止	102
用意	445	安定	169	移行	101
認識	443	就職	169	結合	97
活用	428	帰国	168	分解	95
意味	418	努力	164	終了	94
形成	405	共通	158	増大	93
体験	393	入院	158	統合	91
相談	390	興奮	158	起動	90

処理	383	出場	155	持続	89
請求	382	脱出	154	軽減	88
保存	378	離婚	153	短縮	83
予想	375	適応	151	普及	83
注目	366	入学	149	存続	76
心配	358	侵入	148	両立	73
要求	352	加入	147	延長	71
注意	352	位置	147	交代	70